

しまね国際センター機関誌

# まいるすとんず

MILESTONES

2024 March

81

特集

## SICの新事業体系

注目事業1 SIC多文化ひろば

注目事業2 SICキャンパス

注目事業3 外国人住民防災・災害時支援事業



しまねと世界をもっと近くに。

SICトピックス

JICA草の根技術協力事業 事後調査  
SICにほんごコース《職場でにほんご》

SIC見聞録

第2回しまねベトナム交流サッカー大会

SICレポート

SIC外国人留学生奨学金給付事業  
2023年度国際化功労者顕彰



言葉のひろばの出展者



www.sic-info.org





# SICの 新事業体系



しまね国際センターでは、島根県に暮らす外国人住民が地域で安心して暮らすことができる「多文化共生の地域づくり」と地域住民の国際理解の推進や国際的な人材の育成などの「国際交流・協力」を大きな2本柱として、地域の活性化と国際化に取り組んでいます。

県内で暮らす外国人住民は年々増加し、多国籍化してきており、国際センターに求められるニーズも多様化・複雑化してきています。

こうしたことから、2023(令和5)年度より、より効果的に事業を推進するため、「関係づくり」「担い手育成」「相談・支援」「協働・連携」「意識醸成」の5つの視点から事業体系の整理・見直しを行い、一体的に事業を推進しています。

次ページから、新しい事業体系の概要と注目事業3つを紹介します。



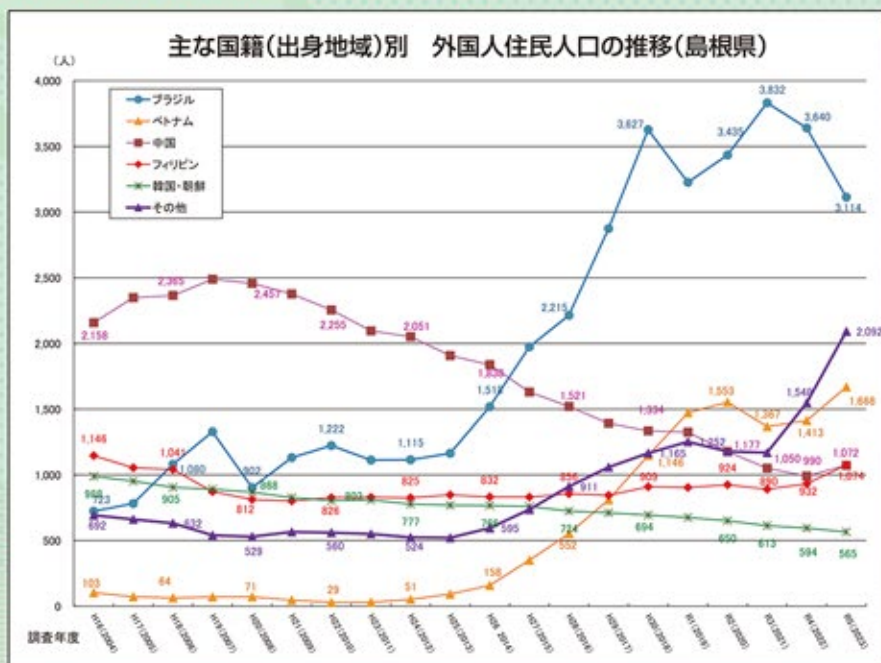
## 島根県の外国人住民の状況

2024年1月1日現在、島根県には、9,585人の外国人住民が暮らしており、県民人口の約1.48%を占めています。外国人住民数は、2019年から2022年までコロナ禍の影響等により横ばいの状況でしたが、人手不足等を背景に増加傾向に転じたと思われます。

出身地別に見ると、最も多いのはブラジルの3,114人で、外国人住民全体の約32%を占めています。次いでベトナム1,668人、フィリピン1,074人、中国1,072人の順となっています。このうち2022年12月末の人口と比べると、ブラジルは526人減少し、ベトナムは255人、フィリピンは142人、中国は82人それぞれ増加し、フィリピンと中国の順が入り替わっています。そのほかインドネシアとネパール、ミャンマーは増加が著しく、それぞれ178人、114人、107人増加しています。アジア地域の出身者が約63%を占める一方で、全体では72の国・地域の外国人住民が暮らしています。

市町村別に見ると、最も多いのは出雲市4,437人、次いで松江市1,928人、浜田市659人となっています。外国人住民比率が最も高いのは、吉賀町の約3.62%、次いで出雲市の約2.60%、江津市の約1.97%です。(島根県文化国際課調べ)

※今回の調査から「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(総務省公表)の時点と合わせるため、1月1日現在の人口集計となっています。



注1)2022年度までは12月末の数値。2023年度からは1月1日の数値。  
注2)2011年以前の数値は外国人登録者数



## SICの新事業体系

### 1. 交流・場づくり事業<関係づくり>

外国人住民と日本人住民との交流の場づくりや、外国青年等の受入れ・交流を通し、お互いの文化や生活習慣等を知り、多文化共生への関心を広げ、相互理解を深める。

#### ① 外国人住民と日本人住民との交流事業

相互に異文化の理解や多文化共生の大切さについて学習

#### ② 青年交流事業

北東アジア地域の青年と島根県の青年との交流

#### ③ プログラム・コーディネート事業

県・市町村が招致する外国青年の受入・配置に係るコーディネート等



### 2. 担い手育成事業<担い手育成>

外国人住民を取り巻く課題や社会的なニーズに対応するため、主体性を発揮して支援活動を行うとする地域住民に対して基礎的・専門的な研修等を行い、担い手を育成する。

#### ① 担い手育成事業

SICにほんごコースや学習支援等のボランティアの養成

あいう



### 3. 相談・支援事業<相談・支援>

外国人住民が自立した社会生活が送れるよう多言語で各種相談に応じるとともに、外国人住民が社会参画する上での課題解決を図るため、行政・専門家・ボランティア等と連携して、様々な支援を行う。

#### ① 生活情報提供・相談事業

多言語による相談、専門相談、出前相談等

#### ② 日本語学習支援事業

日本語学習機会の充実、やさしい日本語の普及促進

#### ③ 外国ルーツの子どもの学習支援事業

外国にルーツをもつ子どもの学習機会の確保

#### ④ コミュニティ通訳ボランティア派遣事業

外国人住民等からの要請に基づき通訳ボランティアを派遣

#### ⑤ 外国人住民防災・災害時支援事業

災害時の外国人住民支援

#### ⑥ 外国人留学生奨学金事業

学生への奨学金給付

### 4. 協働推進・助成顕彰事業<協働・連携>

国際交流団体・市町村等と連携を図るとともに、民間団体が行う多文化共生の地域づくり、国際交流・協力活動を支援する。

#### ① 協働推進事業

関係団体との連携、支援

#### ② 助成顕彰事業

国際交流・協力団体等への支援、個人・団体顕彰



### 5. 広報・啓発事業<多文化共生の意識醸成>

広く県民に対して情報発信するとともに、多文化共生の意識醸成を図るため、機関誌やイベントを通じて広報・啓発を行う。

#### ① 広報事業

ホームページ、SNS等による広報

#### ② 啓発事業

講師派遣やイベント出展等を通じた啓発





# 注目事業 1 SIC多文化ひろば



県内の外国人住民の方々と、気軽に触れ合い、楽しみながら言葉や文化を学び、つながりを作っていく場、それが「多文化ひろば」です。誰でも気軽に参加できる3つのプログラムがあります。

## 親子のひろば

就学前のお子さんとその保護者が、遊びを通して外国の文化に触れることができます。

## 体験のひろば

音楽・スポーツ・クラフト・自然活動などを一緒に体験しながら交流することができます。

## 言葉のひろば

県内外国人住民の方々から、出身国の言葉や文化について教えてもらうことができます。

## 親子のひろば

@浜田 会場:浜田市立中央図書館 開催日:2023年6月24日(土) 参加人数:18人

@出雲 会場:出雲市立ひかわ図書館 開催日:2023年9月10日(日) 参加人数:34人



身近な絵本を通して多文化に触れる機会をつくり、国際交流・多文化共生への関心を育むことを目的として「世界の絵本でおはなし会」を開催しました。

地域にお住まいのフィリピン、ベトナム、ブラジル出身の保護者さんたちに、それぞれの国の言葉で挨拶を覚えてもらったり、絵本の読み聞かせやミニ文化紹介クイズをしてもらったりして楽しみました。

タガログ語での読み聞かせは、フィリピンでよく知られている「TIKBALANG(ティックパラン)」という昔話でした。お化けのような、妖精のような不思議な生き物たちが出てくる少しだけ怖いお話で、初めて聞く言葉の響きやストーリーと絵に、子どもたちはじっと耳を傾けて静かに見入っていました。

ブラジル出身の保護者さんによるブラジルに関するクイズでは、日本でも有名な果実アサイーやマテ茶を飲むカップ(ひょうたん)が紹介されました。懐かしさもあったのか、参加していたブラジル出身の親子の皆さんが笑顔で大きくうなずく姿は印象的でした。

このおはなし会は、今後も続けて実施していきたいと思います。ご協力いただける外国出身の保護者さんも募集中です！



## 体験のひろば

@浜田 会場:浜田市総合福祉センター 開催日:2023年10月8日(日) 参加人数:26人

@松江 会場:しまね国際センター 開催日:2023年10月22日(日) 参加人数:19人

いろいろな国の人たちと一緒にフライドポテトを作って、食べて、交流する「みんな大好き！世界のフライドポテト作り体験」を開催しました。講師は、クッキングパーク代表の園山咲子さんです。材料は、キャッサバ芋・じゃがいも・長芋の3種類です。キャッサバ芋は、出雲市内のブラジルの方たちの農園のものを使用しました。



最初は、緊張気味だった参加者も、一緒に調理をするうちに、だんだんと打ち解けて、会話が弾んでいきました。できあがった3種類のフライドポテトに、7種類の調味料をつけて食べ比べを楽しみました。浜田会場ではベトナム・アメリカ・韓国、松江会場では中国・ネパール・ベトナムの出身の方が参加しました。子どもから大人まで、出身も世代もいろいろな方たちが、お互いに交流を深め、笑顔があふれるひとときになりました。



レシピを参考にして、ぜひご自宅でもおいしい食べ方を発見してみてください。

これからもいろいろなテーマで楽しい体験のひろばを開催していく予定です！



## 言葉のひろば

毎年2月21日は、ユネスコが制定した「国際母語デー(International Mother Language Day)」です。それにちなんで、県内外国人住民の方たちと交流しながら、言葉と文化の多様性に触れるイベントを2024年2月に松江と浜田で開催しました。詳しくは、しまね国際センターWebサイトの「SICレポート」のコーナーに掲載していますので、ご覧ください。

レシピ(提供:クッキングパーク代表 園山咲子)

キャッサバフライ

材料(4人分) キャッサバ芋400g 塩 少々 揚げ油 適量

作り方

- ①:冷凍のキャッサバ芋を黄色くなるまで熱湯でゆでる。
- ②:スティックの形に切って、真ん中の筋を取る。
- ③:180度の油で好きな色になるまで揚げる。

ポテトフライ

材料(4人分) じゃがいも200g 片栗粉30g 薄力粉10g 揚げ油 適量

作り方

- ①:よく洗ってから、皮がついたまま、くし形に切る。
- ②:5分くらい水につけて、キッチンペーパーで水分をとる。
- ③:ポリ袋に片栗粉と薄力粉とじゃがいもを入れて振りながら全体にまぶす。
- ④:160度の油で5分揚げたら、一度取り出す。
- ⑤:190度の油で色がつくまで揚げる。

長芋フライ

材料(4人分) 長芋200g 片栗粉30g 揚げ油 適量

作り方

- ①:よく洗ってから、皮がついたまま、スティックの形に切る。
- ②:ポリ袋に片栗粉と長芋を入れて振りながら全体にまぶす。
- ③:160度の油で5分揚げたら、一度取り出す。
- ④:190度の油で色がつくまで揚げる。

食べ方

好きな調味料をつけて食べましょう(この日は、塩、ハーブ塩、ケチャップ、カレー粉、はちみつ、ココナツパウダーを準備しました)。





## 注目事業 2 SICキャンパス

今年度より「SICキャンパス」という取り組みを始めました。これまでも個別の要望に対応していましたが、多文化共生や国際理解教育に関心のある中高生や大学生の主体的な学習をより一層支援するために、フィールドワークやインターンシップ受け入れなど、体験学習の機会を提供しています。



松江商業高等学校2年生受け入れの様子

2023年12月までに、高校生5名、大学生16名が「SICキャンパス」を利用しました。学校のプロジェクトの一環で参加した高校生には、地域で暮らす外国人へのインタビューの場をアレンジし、自ら多文化共生に関する地域の課題を見つけ出せるようサポートしました。「外国人住民に必要な情報が届いていない」と感じた高校生には、届けたい内容を考え、相手に配慮した「やさしい日本語」を使って、Facebookによる情報発信を行うプロセスを体験してもらいました。また、ゼミ活動の一環で、多文化共生における課題について理解を深め、改善策を考えたいという大学生には、外国人職員への質問の機会を提供しました。「日本語学習」や「医療」「行政窓口」など、事前に10項目の質問を頂き、それぞれの職員が、実体験を踏まえ、回答をしました。また、卒業論文執筆のためのインタビューに対応し、島根県の取り組み等、情報提供を行いました。

### 主な テーマ

- ◎SICのコミュニティ通訳制度について知り、外国の方に情報を伝えたい。(高校3年生)
- ◎地域で暮らす外国人の声を聞き、外国の方に必要な情報を届けたい。(高校2年生)
- ◎多文化共生をテーマとしているゼミ活動の一環で、外国人住民の声を直接聞き、多文化共生社会における課題について理解を深めたい。(大学3年生)
- ◎「日本語教育」や「外国にルーツのある児童生徒」に関する卒業論文を書くにあたり、島根県の状況や取り組みについて質問したい。(大学4年生)

## 注目事業 3 外国人住民防災・災害時支援事業

外国人住民は災害時に、災害に関する情報が入手できないことや、災害に関する日本語が分からないこと等により、弱い立場に置かれることが多いので、災害時にも外国人住民が安心できるよう防災・災害時の支援に取り組みます。これまでも災害時に対応することにしていますが、新事業体系では事業として明確に位置づけました。



### 島根県災害多言語支援センター

島根県文化国際課と共同で、大きな自然災害が発生し、外国人住民の支援が必要なときに設置します。活動内容は、情報の翻訳・発信、多言語での相談、避難所巡回の3つです。設置運営訓練を定期的実施し、設置運営の手順の確認と見直し、翻訳、相談や避難所巡回の演習を行っています。

災害多言語支援センターを設置しないときも、多言語での情報発信や相談等の支援を行います。

### 島根県総合防災訓練

島根県総合防災訓練に参加し、住民避難訓練においては避難所での外国人住民支援の練習や多言語表示を実施しています。展示ブースでは、島根県の外国人住民の状況や外国人住民支援に関するパネル展示をしています。

### 専門的人材の育成

職員は、総務省が実施する「災害時外国人支援情報コーディネーター\*」の養成研修など各種研修に参加し、スキルアップを図っています。

\*災害時に行政等から提供される災害や生活支援等に関する情報を整理し、避難所等にいる外国人被災者のニーズとのマッチングを行う人材



島根県総合防災訓練(避難所での支援練習)



島根県総合防災訓練(展示ブース)



# SIC トピックス



## JICA草の根技術協力事業 事後調査

JICA草の根技術協力事業として、2014年8月から約7年間にわたりサンパウロ州カサパーバ市で実施した環境教育普及プロジェクト\*について、JICAより委嘱を受け、事後調査を行いました。プロジェクト終了後の成果や持続性を確認するとともに、セミナー等のフォローアップ活動を行いました。

期 間：2023年9月9日(土)～9月22日(金) 14日間  
 派遣先：ブラジル国サンパウロ市、カサパーバ市等  
 調査団員：3名 プロジェクトマネージャー、  
 プロジェクトマネージャー補佐、  
 コーディネーター

\*環境教育普及プロジェクト

<第1次プロジェクト> 2014年8月～2016年2月 サンパウロ州小学校教員の環境教育指導力向上事業  
 <第2次プロジェクト> 2017年8月～2021年6月 サンパウロ州カサパーバ市における環境教育推進事業

### 主な調査活動及び調査結果

#### 1. 学校教育における環境教育の実施状況

カサパーバ市立の小学校3校、中学校1校、幼稚園1園、保育園1園を視察調査しました。プロジェクト目標であった「全学年での環境活動」は、終了時7校実施から市立13小学校の全てで実施されていました。

小学校での環境学習は、各学校の状況に応じた形で継続されており、さらに幼稚園や保育園、中学校まで広がりを見せていました。



全校活動による学校菜園  
 (右端は地域のボランティアさん)市内小学校

#### 2. モソタ環境教育センターの整備状況

プロジェクト終了後の整備状況を視察しました。市は、積極的に整備を行い、ハード・ソフト両面で一段と機能強化が進んでいました。



五感で感じる「センソリアル・ガーデン」  
 モソタ環境教育センター



カサパーバ市議会(有馬PMの挨拶)

#### 3. カサパーバ市関係機関への訪問

市では副市長、教育局長、市議会では議長、議員有志と意見交換を行いました。環境教育推進条例の制定に続き、議員提案により環境教育を顕彰する条例や自然保護に関する条例が成立するなど、市と議会双方で環境への取り組みが積極的に進められていました。

#### 4. 自然アンビエンタルの活動状況

自然アンビエンタル(環境教育を広めるため、プロジェクト関係者によりブラジル島根県人会内に設立された組織)が最初に支援したアルモニア学園(サンベルナルド市)を視察しました。環境教育の実施状況の説明を受けた後、小学2年生の授業を視察しましたが、座学と教室外での観察がうまく機能した効果的な授業でした。



アルモニア学園での授業視察(校内樹木の観察)

#### 5. 環境教育セミナー

このセミナーは、SIC等による環境教育プロジェクトの評価結果と、自然アンビエンタルによる環境教育の普及活動を一般に紹介することにより、環境教育の一層の普及を図ることを目的に開催しました。



環境教育セミナー終了後 講演者を囲んで(文協・貴賓室)

セミナーの様子は  
 こちらをご覧ください。



(YouTube)

プロジェクトに係るブラジル訪問は、2020年2月以来の3年半ぶりでした。カサパーバ市では環境教育の継続はもとより、市や議会の後押しで、さらなる進展が見られるとともに、自然アンビエンタルによる普及活動も続いており、支援した側として大変喜ばしい結果となりました。

「終わりは、新たな始まりである」という言葉があるよう、環境教育が結ぶ縁を大切に、できる支援を続けていきたいと考えています。





# SIC トピックス



## SICにほんごコース《職場でにほんご》

《職場でにほんご》は、島根県としまね国際センターが2019年度から実施している「SICにほんごコース」\*1のうち、県内事業所で働く外国人材を対象とした有償プログラムです。今年度は、出雲市内の5事業所\*2と、松江市内の1事業所\*3で実施しました。建設、製造、農業、介護の分野の5か国31人が、生活や職場でのコミュニケーションに必要な日本語や、事業所の希望に応じ、業務を遂行するために必要な日本語を学びました。日本語の学習経験がある方がほとんどでしたが、このプログラムに参加することで、聞いたり話したりすることに慣れ、日本語を使うときに緊張しなくなったという声が聞かれました。また、事業所の方にとっては、どのように話しかければコミュニケーションが取れるのかを知る機会になったようです。

\*1 文化庁補助事業。

詳細は、「まいるすとんず80号3ページ(2023年3月発行)」に掲載しています。▶

\*2 出雲市「外国人住民雇用事業所別日本語研修」を活用

\*3 島根県「外国人介護人材受入施設環境整備事業費補助金」を活用



(PDFダウンロード)



株式会社タナカ(出雲市)での学習の様子

### 事業所の主なコメント

- ・技能実習生の日本語の理解度を知ることができた。先生のわかりやすい日本語や問いかけは参考にしなければならなかったと感じた。また、日本語で話しかけてくれる機会も増えた。
- ・今までよりもさらに日本語を使用し、社員とのコミュニケーションをとる姿が見られた。

### 学習者の主なコメント

- ・とても役に立った。会社の人と話す機会も増えた。
- ・リラックスして、日本語が勉強できた。先生はとても優しく、先生の日本語はわかりやすかった。



県内の国際交流・国際協力等の取組みを紹介する「SIC見聞録」。今回は、しまねベトナム交流サッカー大会(2023年度「世界とつながる島根づくり助成金」交付事業)をご紹介します。

## 第2回しまねベトナム交流サッカー大会

NPO 法人しまねベトナム同志会

本法人は、島根とベトナムの交流を目的に2022年6月に法人登記をしたNPOです。

今回助成をいただいた交流サッカー大会は、2022年に初めて出雲市の浜山公園にて開催し、2023年は5月28日に松江市の北公園多目的広場にて開催しました。その目的は、山陰在住のベトナム人と日本人がサッカーを通じて交流しお互いを理解してもらうことで、ベトナム人の6チームと日本人の2チームが参加しました。

試合を見て感じたのは、ベトナム人チームの運動量が半端ないことです。4チームずつに分かれて予選を行い、1位同士で決勝を行う形をとったのですが、いずれもベトナム人のチームが勝ち上がり、日本人のチームは体力負けをしている印象を持ちました。

ベトナムでのサッカー熱は日本以上である(サッカーファンの割合は75%でアジア1位。日本は28%)と聞いていたのですが、ベトナムの皆さんは大会に向けて毎週練習をしていたそうで、やはり動きが違いました。

今回は応援も盛り上がり、前回に比べ円滑な運営ができたと思いますが、周知不足により住民の方の参加が少数だったことが反省点として残りました。今後は、このサッカー大会を続けていくとともに、秋に松江で開催した交流フェスティバルも合わせて、県民の方々とベトナム人との交流の場を設け、相互の理解を深めていく取り組みをしたいと考えています。

最後に開催にあたりご支援をいただいた、しまね国際センター、松江市役所、島根県サッカー協会、ベトナム人所属企業の皆様に感謝申し上げます。



試合中!



表彰式の様子





## SIC外国人留学生奨学金給付事業

今年度は、11人の私費留学生に奨学金を給付しました。さらに、松江水燈路での出店ボランティア、当センターでの各国のフライドポテト作り体験、くにびき学園でのやさしい日本語での交流等々、奨学生と県民の皆さまが実際に楽しく交流する機会も持つことができました!

昨年11月から開始した寄附金募集では、1月末までに約135万円の寄附が寄せられました。島根で夢を追う私費留学生の皆さんのために、多くの方々から温かいご支援をいただき、心からお礼申し上げます。

\*今年度の奨学生からのお礼のことは、ホームページでご紹介する予定です。



みんな大好き!世界のフライドポテト作り体験

## 2023(令和5)年度国際化功労者顕彰

国際交流や国際協力、多文化共生など、島根県の国際化に尽力し、その功績が特に顕著な個人・団体を顕彰することを目的に、1998(平成10)年度から国際化功労者顕彰を行っています。

今年度は、次の1団体、1個人に表彰状が授与されました。

☆日本語指導ボランティアグループ かけはし(会長 わたなべ りつや 渡部 律也 様)(松江市)

【ご功績】1996年の設立以来、長年にわたり日本語指導ボランティアとして外国人住民の語学支援を行ってきた。その活動は語学支援に留まらず、外国人住民からの各種相談にも対応し、2016年度から2022年度まで島根県外国人地域サポーターとしても活躍するなど、地域の多文化共生に多大なる貢献をした。

☆小山 繁樹 様(雲南市)

【ご功績】長年にわたり、大東国際文化交流協会および雲南市国際文化交流協会の役員を務め、1986年から続く早稲田大学留学生ホームステイ事業の継続実施や、この事業を契機とするアメリカインディアナ州リッチモンド市と大東町、のちに雲南市との姉妹都市提携の実現に尽力し、自身も10回以上、総勢14名の留学生を受け入れるなど、地域の国際交流事業の発展に大きく寄与した。

表彰式にて、受賞者の小山繁樹様と関係者の皆様。当日は小山様が顧問を務める雲南市国際文化交流協会から松島・今岡両副会長、推薦団体の雲南市からご担当の福岡様、藤野井様にもご参加いただきました。



賛助会員のみならず

ご住所などご登録情報が変更になった場合には、当センターへご連絡ください

公式SNSアカウントで、多文化共生、国際交流、SICに関する情報を発信しています。ページや投稿のフォロー、いいね、シェアをよろしくをお願いします!

Facebook(フェイスブック)

アカウント名:しまね国際センター Shimane International Center  
アカウントURL: <https://www.facebook.com/shimaneinternationalcenter/>



Instagram(インスタグラム) 名前:しまね国際センター

ユーザーネーム:shimane\_international\_center  
アカウントURL: [https://www.instagram.com/shimane\\_international\\_center/](https://www.instagram.com/shimane_international_center/)



## (公財)しまね国際センター [しまね外国人支援センター・しまね国際研修館]

〒690-0011 島根県松江市東津田町369番地1  
TEL: 0852-31-5056  
FAX: 0852-31-5055  
[ホームページ] <https://www.sic-info.org>  
[E-mail] [admin@sic-info.org](mailto:admin@sic-info.org)



### 【西部支所】

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433番地2  
公立大学法人 島根県立大学 メディアセンター2階  
TEL: 0855-28-7990  
FAX: 0855-28-7991  
[E-mail] [hamada@sic-info.org](mailto:hamada@sic-info.org)

★編集後記 本号の編集期間に能登半島地震が発生し多くの方が被災されました。災害の状況が徐々に明らかになり状況の深刻さが伝えられています。災害に備えて、防災用品を見直したり避難所や避難方法を改めて確認したりした方も多いのではないのでしょうか。SICは災害時に外国人住民支援を行うこととしています。ただ、今の準備が十分か、準備していても対応できる状況なのか悩ましいことではありますが、常に見直して備えていきたいです。

## まいるすとんず MILESTONES

Milestone(s) [まいるすとん(ず)]とは道標、または画期的なできごとという意味があります。センターの設立、活動が島根県の国際化の歩みの中で意義深いものとなり、この機関誌が一つの道標としてお役に立てればと名付けられました。